

【報告】

・【第6回CIECサタデーカフェ】

テーマ：「主婦と変人が創り出す新たな学びとは」

開催日：2021年10月16日(土)20:00-21:00

開催形態：ZOOMによるオンライン開催

主催：小中高部会

・【九州PCカンファレンス in 鹿児島】

テーマ：「明日につなげよう、みんなつながろう」

開催日：2021年11月13日(土)

会場：オンライン(鹿児島大学)

共催：一般社団法人CIEC(コンピュータ利用教育学会)

後援：鹿児島大学、鹿児島県教育委員会

・【CIEC生協職員部会 第1回勉強会】

テーマ：With コロナでの大学生の学び

～ コロナ禍で入学した大学生たちは、高校・大学で、どのように学んでいるか？

開催日：2021年11月19日(金) 18:30-20:30

開催形態：ZOOMによるオンライン開催

主催：CIEC生協職員部会

・【第7回CIECサタデーカフェ】

テーマ：プログラミング教育における、はじめの一步 ～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～

開催日：2021年11月20日(土) 20:00-21:00

開催形態：ZOOMによるオンライン開催

主催：小中高部会

・【PCカンファレンス北海道2021】

テーマ：コロナ禍を共有するアジアの教育

開催日：2021年11月27日(土)

開催形態：オンライン <https://ciec.hokkaido.jp>

主催：PCカンファレンス北海道2021実行委員会

【第6回CIECサタデーカフェ】

【開催概要】

開催日：2021年10月16日(土)20:00-21:00

会場：Zoomによるオンライン開催

プログラム

20:00-20:15【話題提供】

スピーカー：河口紅(NPO法人さんびいす理事長、兵庫県立大学非常勤講師)

大脇巧己(NPO法人さんびいす事務局長)

テーマ：「主婦と変人が創り出す新たな学びとは」

20:15-21:00【フロアとのフリーディスカッション】

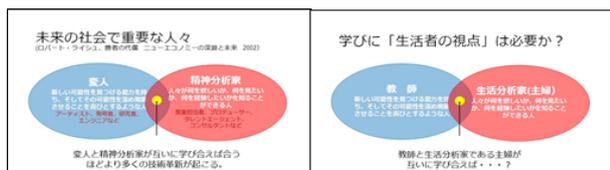


第6回CIECサタデーカフェは「主婦と変人が創り出す新たな学びとは」をテーマにNPO法人さんびいすの河口氏と大脇氏のお二人による話題提供で開始しました。お話し

河口氏の性差によるモヤモヤ体験からスタートしましたが、そういった女性的な視点よりも、生活者の視点をいつも大切にされています。ひき肉の冷凍保存法や蒸気レス炊飯器の開発、また市内のおさんぽマップの作成などの経験を踏まえて制作者の視点だけではなく、利用者の視点を盛り込むことの大切さを実感されたそうです。そこで紹介されたのが、「勝者の代償」(ロバート・ライシュ)という書籍にある、アーティスト、発明家、研究者に代表される「変人」と、営業担当者、プロデューサー、コンサルタントに代表される「精神分析家」が互いに学び合えばあうほど、より多くの技術革新が起こるという理論です。これを河口氏は「変人」を「教師」に、「精神分析家」を「生活分析家(主婦)」と読み替えることで、これらが互いに学び合うことは大切ではないかという提起をされ、話題提供は終了しました。

その後、フロアを交えてのディスカッションに移りましたが、どのようなことでも、いろいろな視点に立つて考えることが大切であるということに終始しました。例えば、教師は子ども達がどのように社会で生きていくのかを教えることが重要である反面、現場では教科のスキルを教えることに注力しがちであることや、ICTが進化し、学習自体も考える力の育成へシフトしているからこそ、教科内容の本質を正しく教えることが大切なのではないかということが話されました。また、生活者の視点というのは、デジタルシチズンシップの考え方が大切なのではないかという話もされました。これらの話から、つまりは専門家がすべてを決定することが正しいわけではないということが顕在化する時代が来たように感じました。河口氏のお話の通り、バブル時代は男女差別も当然のように存在し、それが女性の視点を大切にしていくなりになりましたが、次は性別に関係なく、すべての人においてさまざまな視点を持つて考えることが重要になってきたと感じます。これを教育に置き換えると、先生と生徒、生徒同士の対話の中でこそ机上の知識にとどまらない真の生きる力となる学びが成立し、互いに学び合うことがより大切で、またその先生役は学校の先生に限らず、保護者や地域の大人であってもよいということだと感じました。最後には、これからの子ども達にこのような生活者の視点を持てるように育てていくことが大切であり、そのためにも、大人も同じ視点を持つように意識することが大切ではないかとまとめられました。

今回は14名ほどの参加でしたが、教員以外の話題提供者による初のサタデーカフェとなり、とても有意義な時間でした。この会も6回を数え、さまざまな分野でご活躍の方に参加いただき、回を重ねるごとにCIECらしい取り組みだと感じています。今回も時間を延長してディスカッションを楽しみ、盛況のうちに終了しました。



今回の話題提供者である河口氏、大脇氏、またご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責：平田義隆)

【九州 PC カンファレンス in 鹿児島】

【開催概要】

開催テーマ：明日につなげよう、みんなつながろう
 開催日：2021年11月13日(土)
 会場：オンライン (鹿児島大学)
 主催：2021九州PCカンファレンス in 鹿児島実行委員会、
 全国大学生生活協同組合連合会九州ブロック
 共催：一般社団法人CIEC(コンピュータ利用教育学会)
 後援：鹿児島大学、鹿児島県教育委員会
 参加費：無料

プログラム：
 開会挨拶(実行委員長、開催校代表) 9:30-10:00

講演①10:00-11:10
 『対話と挑戦が”つながり”を加速させる』伊達あすみ 氏
 (一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab)

講演②11:15-12:25
 『わくわくする事業創造～大学生時代の資本金 0 円での
 起業～』虎岩雅明 氏 (株式会社 TRYWARP)

IT フェア① (プレゼンテーションタイム) 12:30-13:30

分科会①13:30-14:30

IT フェア② (プレゼンテーションタイム) 14:30-15:30

分科会②15:30-16:30

IT フェア③ (『小中高校生の GIGA スクール構想』日本マ
 イクロソフト) 16:30-17:30

ナイトセッション 17:45-18:30

- A: マイクロソフトと語ろう
- B: 電子教科書について語ろう
- C: 鹿児島大学生協の混雑情報について語ろう
- D: 学生委員会・組織部・新入生アドバイザー、Gather、何でも語ろう!
- E: テーマフリー

2021九州PCカンファレンス in 鹿児島が、11月13日(土)、鹿児島大学をホスト校としてオンラインで開催された。オンライン開催のため昼食時間や休憩時間を陽に設けることはせず、開催日を従来の土日の2日間から土曜のみに変更して実施した。オンラインでの実施のために、バーチャル空間でアバターを操作するタイプの Gather.Town を使用した。

図1および図2は会場図であり、講演①②は図1右上のメインホールで開催され、分科会は図中左のA~C会場、IT フェアの企業ブースは上部の空間を使用した。特にアナウンスはしなかったが、右側のフリースペースは打ち合わせで有効に利用されていた。ナイトセッションは図2に示す5会場で実施され、興味のあるテーマ会場に自身のアバターを移動して議論が繰り広げられた。

講演①は一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab 理事長 伊達あすみ 氏による『対話と挑戦が”つながり”を加速させる』であった。講演では、鹿児島に対

話と挑戦の協働文化をつくり未来へつなげる「鹿児島未来170人会議(鹿児島県民170万人の0.01%)」および「鹿児島県出水市の本町通り商店街での取り組み」について述べられ、題目通りの「つながり」と「対話」が心に残る講演であった。

講演②は、株式会社 TRYWARP 代表取締役 虎岩雅明氏による『わくわくする事業創造～大学生時代の資本金0円での起業～』であった。虎岩氏が自身で大学在学中に企画したイベント、起業に至る経緯、そして「わくわく」する事業について述べられた。

いずれの講演も終始「わくわく」を共有する内容であり、活発な質疑応答によって、講演内容を深めることができる有意義なものであった。

分科会では13件の発表があり、ナイトセッションでも活発な議論がなされた。特に今回の Gather を使用した IT フェアの企業ブースは、「人がうちのブースに近づいて来てるのが分かる」「企業ブースを訪ねやすい」等、その評判は良かった。最後に、オンライン開催にもかかわらず参加者は98名であり、その内訳は教員25名、学生24名、一般12名、生協職員37名であった。

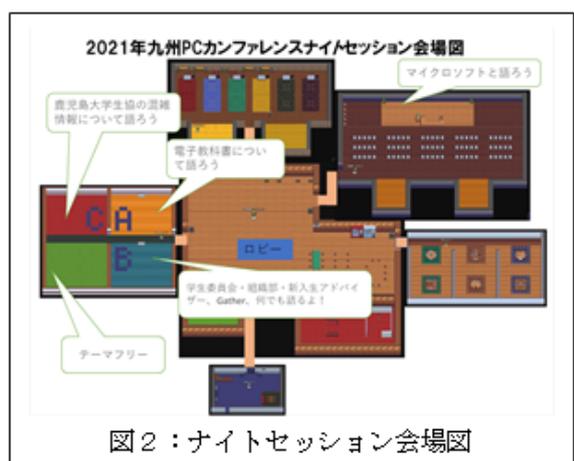


図2：ナイトセッション会場図

【CIEC 生協職員部会 第1回勉強会】

【開催概要】

開催日：2021年11月19日(金) 18:30-20:30

会場：Zoomによるオンライン開催

テーマ：With コロナでの大学生の学び ～ コロナ禍で入学した大学生たちは、高校・大学で、どのように学んでいるのか？

18:30-19:00

【報告1】With コロナでの大学生の学び ～ コロナ禍で入学した大学生たちは、『大学で』どのように学んでいるのか？辰己丈夫氏(放送大学)

19:00-19:30

【報告2】With コロナでの大学生の学び ～ コロナ禍で入学した大学生たちは、『高校で』どのように学んできたのか？中野 由章氏(工学院大学附属中学校・高等学校)

19:30-20:30 参加者とのフリーディスカッション

2021PCカンファレンス、セミナー2「2021年度大学生の学習環境はどう変わったか」を開催した中で、さらに大学・高校でどのような学びをしているのかを、大学教員・高校教員の立場から報告をいただいた。

報告1では最初に小中高の情報教育と大学の情報教育の状況について報告をいただいた。

小中高の情報教育については、2020年から始まった小学校のプログラミング教育の実施や2022年から(高校)従来の情報の授業よりより高度な「情報I」が実施(プログラミング・データサイエンス・情報システム・情報デザイン)されることなどが報告された。

大学の情報教育は今後2025年度から大学入学共通テストに「情報」が追加(予定)であったり、2022年度から全大学へ数理・データサイエンス・AIリテラシー講座の提供義務が発生するなどのこれからの大学での変化について報告された。

報告2では小中高での情報教育の歴史的経過について説明いただき、2022年度から実施される「情報I・II」(高校)と現在の「社会と情報」「情報の科学」について報告された。2022年度からは情報Iは共通必修科目になることや2025年度大学入学共通テストにも出題科目となり、今後は情報Iの内容を履修したより高度な情報の知識を持つ層が増えていくことが報告された。

2つの報告を受け、報告の辰己氏、中野氏を中心に参加者とのフリーディスカッションを実施した。生協職員、高校教員、大学教員と参加者からの感想報告や報告者への質問が多数寄せられ、特に中高生の教科「情報」の変化を理解することが必要だと感じられた勉強会となった。

【第7回CIEC サタデーカフェ】

開催日：2021年11月20日(土)20:00-21:00

会場：Zoomによるオンライン開催

プログラム

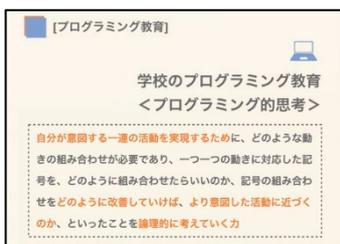
20:00-20:15【話題提供】

スピーカー：慶徳大介氏(3rdschool)

テーマ：プログラミング教育における、はじめの一步～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～

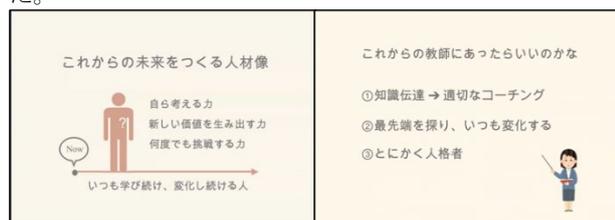
20:15-21:00【フロアとのフリーディスカッション】

第7回 CIEC サタデーカフェは「プログラミング教育における、はじめの一步～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～」をテーマにプログラミング教室「3rd school」を運営されている慶徳大介氏による話題提供となりました。



もとは小学校教員をされていた慶徳氏ですが、現在は行政との連携授業等で学校現場(特に小学校)と関わっておられます。話題は、プログラミング教育について現場の先生が抱えている印象から始まり、世界における環境の目まぐるしい変化や、様々なビジネスが広がってきているこの世の中を考えると、いまこそプログラミング教育が必要なのではないかという提起でした。これから訪れる未来には、自ら考える力や新しい価値を生み出す力を持ち、いつも学び続け、変化し続けられる人が必要であり、そのためにもプログラミング的思考を持った人材の育成が不可欠であるとおっしゃられました。さらに、これからの教師像として求められる素養としては、「適切にコーチングできる人」、「最先端を探りいつも変化できる人」、また「とにかく人格者であること」などを挙げ、今後のプログラミング教育や教師のあり方について多くの視点から話題提供をいただきました。

その後のフロアとのディスカッションでは、これらの話題提供をもとに様々な視点から話がされました。いくつか紹介すると、「現場の先生方の中には、プログラミング教育は難しいと感じている方が多いように思う。」というコメントに対しては、「先生方は子どもたちに教えないといけないという思いが強すぎるのではないかな。子どもたちと一緒に考えてみようという気持ちをもっと気軽に持ってほしい。」と答えられていました。「これからは、存在しない答えに対して、どのように向き合っていくかが問われている時代であり、教えることを中心に据えている教員は大変である。」というコメントもありました。またプログラミング教育に関わる評価の問題にも触れられ、教え込むことに注力すれば、簡単に評価に結びつけられることが原因で、現場ではなかなかここから抜け出せないでいる実態等も話され、これについては、指導と評価の一体という言葉に触れた上で、評価が結果ではなく過程であると受け止めることで、そういった問題を乗り越えていけるヒントがあるのではないかなという提起もなされました。そもそも、プログラミングは楽しいもので、自分で考えて自分で作っていく楽しさや、それが結果として問題解決などにもつながることを子どもたちに見せてあげられればよいのではないだろうかという話も出され、そういった教育活動の中では、先生が子どもたちとともに成長し、試行錯誤しながら一緒に活動することが大切ですね、という話で終了しました。



今回は17名の参加で、新しい視点でのお話や、教員のあり方の本質的なお話も伺えた有意義な時間でした。今後も、さまざまな分野でご活躍の方に話題提供をいただければと考えております。今回の話題提供者である慶徳氏、またご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責：平田義隆)

【PCカンファレンス北海道2021】

【開催概要】

開催テーマ：コロナ禍を共有するアジアの教育

開催日：2021年11月27日(土)

会場：オンライン <https://ciec.hokkaido.jp>

主催：2021九州PCカンファレンス in 鹿児島実行委員会、全国大学生生活協同組合連合会九州ブロック

主催：PCカンファレンス北海道2021実行委員会

共催：CIEC コンピュータ利用教育学会・全国大学生協連合会北海道ブロック

司会：森 夏節(酪農学園大学)

分科会座長：曾我聡起(公立千歳科学技術大学)、石谷 正(北海道霧多布高等学校)

参加者数：63名

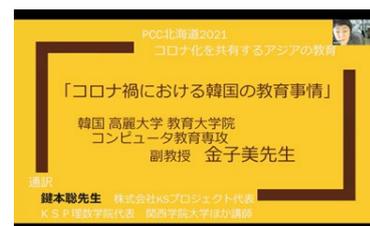
参加料：無料 ※論文集1,000円

【プログラム】

10:30-10:35 開会式

10:35-2:00 特別講演
(Zoom ウェビナー)

13:00-16:05 分科会発表
(Zoom ミーティング)



【開催報告】

例年 PC カンファレンス北海道(以下、PCCH と略)は、札幌市内及びその近郊と道内各地の大学を交互に会場として開催してきた。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮してオンラインで開催した。本年度も収束の見通しが立たなかったため、オンラインでの開催を決定し、主に Zoom によるオンライン会議と Slack で準備を進め、一度も対面の会議を行わずに開催を迎えた。

昨年は、発表をオンデマンド方式で行い、質疑応答をリアルタイムで行った分科会は、質疑応答が活発ではなかったという反省を踏まえリアルタイムでの発表に変更した。本年度も PCCH2021 特設 Moodle サイト

(<https://ciec.hokkaido.jp>) で、参加登録者のみ発表論文を閲覧できるというセキュアな環境で行なった。発表件数は9件で、うち学生の発表は4件であった。

特別講演は大韓民国と繋いで Zoom のウェビナー形式で開催した。登壇者を含め、38名の参加があった。

特別講演

演題：「コロナ禍における韓国の教育事情」
講演者：金子美氏
(高麗大学)

共催：国際活動委員会

通訳：鍵本聡氏(KSP理数学院/KSPコリア学院)



まず、高麗大学校の昨年度から今日に至るまでの取り組みについて詳細な報告があった。リアルタイムオンライン講義は、3つのプラットフォーム（Collaborate、KAFE、YouTube）から選択可能で、必ず録画を行うことが求められており、録画した講義のプラットフォームとしては、CommonsとYouTube（どちらもBlackboardと連動）が使用されたとのこと。さらに、授業の基準や聴講生への対応、出席確認方法、著作権問題、実際の教員の操作手順などの報告があった。現在は他の大学も含め様々な方法を通じてオンラインに慣れてきている状況とのこと。

次に小中高校生のオンライン学習支援の報告があった。KERIS（韓国教育学術情報院）が運営している様々なプラットフォームが提供する具体的なサービスについて、教師支援の「EDUNET」、「ITDA」、「知識セムト」、学生学習支援の「e学習の場」、「デジタル教科書」、クラス支援の「ウイドウラン」の詳細な説明があった。現在は対面授業がおこなわれているとのこと。

質疑応答では参加者からウェビナーのQ&A機能やチャットを使って質問を募り、講演者から回答してもらうなど双方向でのやり取りが活発に行われた。

分科会は、発表15分、質疑応答3分で行なった。事後のアンケートでは、質疑応答の時間をより長くするべき、チャットを活用すべきとの指摘があった。

学生プレゼンテーションスキル賞は、公立千歳科学技術大学理工学部情報システム工学科の滝見拓夢さん「モチベーショングラフによる感情分析を用いた自己分析支援ツールの開発と提案」に決定した。

謝辞

本カンファレンスの開催にあたり、ご協賛いただいた沖電気工業株式会社、株式会社富士通パーソナルズ、株式会社トレミール、合同会社三玄舎、配信会場および機材提供でご協力いただいた酪農学園大学、また特別講演にご協力いただいた国際活動委員会に感謝申し上げます。

文責：CIEC 北海道支部長 高瀬敏樹（市立札幌旭丘高等学校）